

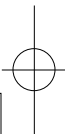
じつばら

その場で現金を現金支給すること。ちなみに、その場で現金支給された現金を後ろから走ってきた泥酔者にやり持ち去られた場合、「じつばらいだっただがよっぱらいにかっぱらわれた」という、じつに趣深い表現になる。かっぱかっぱのかっぱかっぱだった。

ならび

支払う報酬を源泉徴収される10パーセントの所得税込みの数字にすること。たとえば若手芸人チョンマゲ四姉妹のギャラが8000円だったとすると、実際に振り込まれる額は源泉徴収を引いて7200円になってしまう。チョンマゲ四姉妹はガツカリするが、ギャラが8ならびだった場合、額面8888円の手取り8000円ということになり、チョンマゲ四姉妹も大喜びするわけである。

その他篇



なながけ

本来の価格の70パーセントで買ったり仕入れたりすること。むろん「はちがけ」「もろくがけ」もあるわけだが、「にがけ」「くらいになると」「にがけえ!?!」という驚愕の反応になるのがふつうである。割引されたものがさらに割引されたりする場合は、「なながけのなながけ」というふうに表現され、高いのが安いのがよくわからなくなってしまう。電卓を叩くことになる。

半値八掛け二割引

そして、場所と時期によってはこんなことになることもあるらしい。ハンネ八チガケニワレヒキ? ええと、 $0.5 \times 0.8 \times 0.8 = 0.32$ 。ってことは、なに? 1000円のものが320円? 1000円のは32円? え、なにに、どゆこと?

片手

ざっくりとした見積もりのときなどに使う、なんらかの「5」を意味する言葉。仕事の種類や規模に応じて5万円だったり50万円だったり5千万円だったり。「じつがんはってま片手は」きそつですわね! 「逆にいつと片手なままりますか?」 発音の際、相手に向けた手のひらはもちろんパーの形になっている。同じ使い方、「両手」もあり、こちらは当然、なんらかの「10」を表す。

数字を丸める

数字の端数を処理して、「0」の多いざっくりとした数字にすること。先輩から見積もりの書類をぼんと渡されて、「これ、数字丸めとして」などと言われた場合、念力などで無理矢理丸める必要はない。

まっかつか

ものすごい原価割れ。びっくりするほどの赤字。「例のあれはけっきょくどつだったんです?」「いや、もう、まっかつかです。」

まっしろになる

一瞬、思考を失ってしまう様子。重要なプレゼンでそのなる場合もあるし、思わぬミスに気づいてそのなる場合もあるし、あまりの忙しさにそうなってしまつ場合もある。矢吹文とは無関係である。

その他篇

